

思いやりのある生徒
確かな学力をもつ生徒
心身ともにたくましい生徒



こうだい



自信と誇りもて歩め

先週金曜日、秋晴れの穏やかな日に「生月文化の日」が開催されました。生徒会によるオープニングの後、各学年の発表が行われました。

1年生は、フィールドワークで知った生月の戦跡と史実を劇「生月砲台と子どもたち」に仕立て上げました。戦中、砲台を作る過程で海砂利を運ばされた子どもたちの姿と現代の子どもたちの生活が重ねられ、原爆や特攻、沖縄戦などだけではなく、身近なところに戦争を伝えるものはあります。8月だけの平和学習にとどめてはいけないというメッセージを伝えました。戦後80年の今年、このような発表ができたことは大きな意味がありました。

む文化



2年生の「職場体験を終えて」は、7月に行つた職場体験学習の様子を伝えるものでした。再び事業所の協力を得て、実際の衣装を身に着けて、ユーモアを交えて演技し、次々と場面転換する有様は、スピード感のある昨今のコンテンツさながらでした。タレントが多く、その特性を見抜いて（「EDの音声まで！」）作り上げていたのはさすがでした。今年は、大道具・小道具や背景などにも力が入つていたと保護者の感想の中にもあつたのですが、巨大なマグロのですが、巨大なマグロ格であったのは間違いありません。

3days」と題して、修学旅行のエピソードと学んだことを披露しました。大分の「うみたまご」のバスの降車からセイウチやイルカまで登場する賑やかな場面から一転、菊池恵楓園でのハンセン病に関わる差別の歴史を真剣なトーンで描きました。そして、最後は、太宰府で菅原道真公も飛び出し、合格祈願で幕を閉じました。保護者感想には、ハンセン病のことが分かつて良かつたというのもあり、3年生らしく、楽しきの中に重みもある発表だったと思います。

展示見学の時間を挟み、後半は、各学年の合唱発表でした。最初の「ふるやまと」の合唱では、全校生徒の大きな力を感じました。

その分フレッシュで元気な声を届けてくれました。来年、再来年が楽しみになるような歌声でした。2年生は、女子声パートのアカペラで始まる「証」を披露。パートが一体となつた時、思春期を過ごす中学生の思いがあふれるほど伝わつてきました。最後の3年生は、「友々旅立ちの時」として、卒業式の式歌のように感じた保護者もいたようです。印象の通り、かみしめるような表情でステージを降りてくる3年生の姿が歌声とともに心に残りました。

この発表がありました。どちらも生月愛あふれる立派なスピーチでした。（当日、森さんが優秀賞を受賞しました。）

体育館壁面を彩る各教科の作品や成果物も見応えがありました。体育館全体が文化の香りに満たされた1日でした。

学級の仲間の団結であつたり、地域の皆さんへの支えであつたり、会場で感動を共有することであつたり、「生月文化の日」を通して感じたのは、「つながり」のありがたさです。生月の文化や伝統、歴史、地域のコミュニケーションのつながりの中に生月中学校もあるということです。これからも、つながりを大切にして、We Keep Going! 自信と誇りも歩め。



